

犯罪被害者支援被害者支援に関する県民の意識調査について

調査の目的：犯罪被害者等支援についての理解度、県及び市町の犯罪被害者等支援の認知度、性暴力についての理解度、性暴力被害者専用相談窓口「サポートながさき」の認知度について現状を把握し、今後の施策に反映するため。

調査期間：令和3年6月24日～7月9日（15日間）

調査対象：ながさき WEB 県政アンケート全モニター 338名

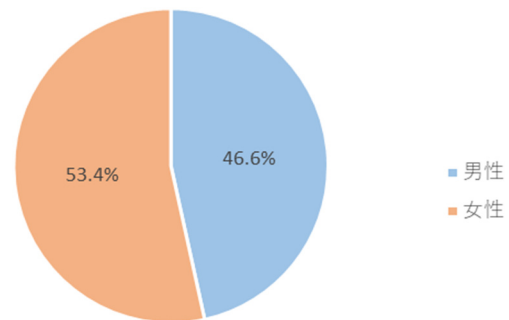
回答状況：305名（回答率90.2%）

調査担当課：交通・地域安全課

回答者の属性

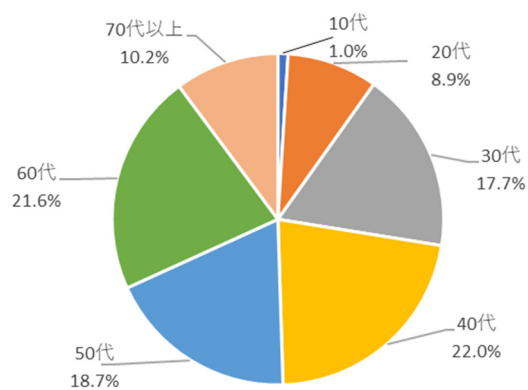
○男女別

	人数	構成比(%)
男性	142	46.6%
女性	163	53.4%
合計	305	100



○年代別

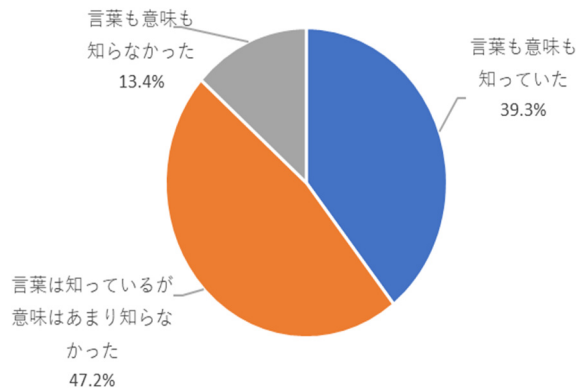
	人数	構成比(%)
10代	3	1.0%
20代	27	8.9%
30代	54	17.7%
40代	67	22.0%
50代	57	18.7%
60代	66	21.6%
70代以上	31	10.2%
合計	305	100



【アンケート結果】

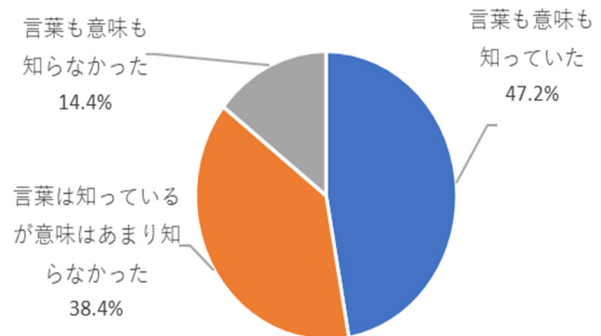
Q1 「あなたは、「犯罪被害者等支援」という言葉やその意味を知っていますか。

	回答数(人)	構成比(%)
言葉も意味も知っていた	120	39.3%
言葉は知っているが意味はあまり知らなかった	144	47.2%
言葉も意味も知らなかった	41	13.4%
合計	305	100.0%



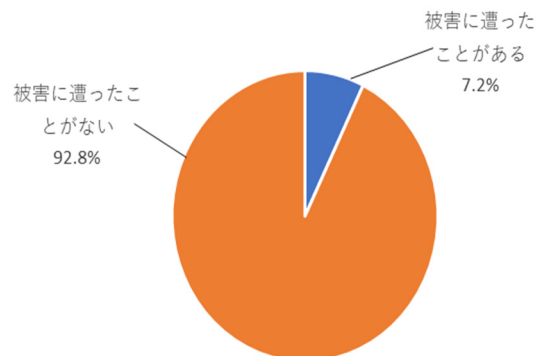
Q2 あなたは「二次被害」という言葉やその意味を知っていますか。

	回答数(人)	構成比(%)
言葉も意味も知っていた	144	47.2%
言葉は知っているが意味はあまり知らなかった	117	38.4%
言葉も意味も知らなかった	44	14.4%
合計	305	100.0%



Q3 あなた又は家族等周囲の人が、過去に犯罪等（犯罪行為及びこれに準ずる心身に有害な影響を及ぼす行為をいいます）の被害に遭ったことがありますか。

	回答数(人)	構成比(%)
被害にあったことがある	22	7.2%
被害にあったことがない	283	92.8%
合計	305	100.0%



Q4 (Q3で「被害に遭ったことがある」と回答された方にお尋ねします) 被害に遭った際の相談先はどこですか。(複数回答可)

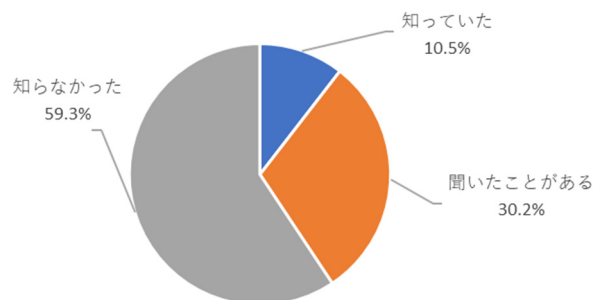
	回答数(人)
家族・親族	13
友人・交際相手	3
上司・同僚	0
学校等の先生・カウンセラー	2
警察	11
弁護士・法テラス	4
行政相談窓口	1
民間犯罪被害者支援団体	0
どこにも(誰にも)相談していない	2
その他	0

Q5 (Q4で「どこにも(誰にも)相談していない」と回答された方にお尋ねします) 相談しなかった理由としてあてはまるものを選んでください。(複数回答可)

	回答数(人)
どこに相談して良いかわからなかった	0
自分が被害に遭っていることに気付かなかった	0
相談するほどのことではないと思った	0
他人に知られたくなかった	2
言っても何もしてくれない/役に立たないと思った	2
おおごとにしたくなかった	1
相談することを思いつかなかった	0
特に理由はない	0

Q 6 あなたは県・市町が犯罪被害者等への総合的な対応、支援を行う窓口を設置していることを知っていますか。

	回答数(人)	構成比(%)
知っていた	32	10.5%
聞いたことがある	92	30.2%
知らなかった	181	59.3%
合計	305	100.0%

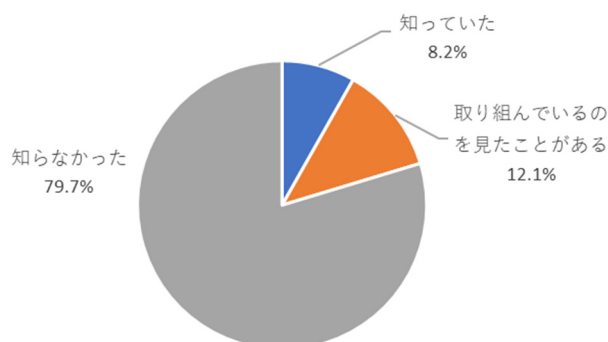


Q 7 Q 6で「知っていた」と回答された方にお尋ねします 県・市町の総合的対応窓口を知ったきっかけとしてあてはまるものを選んでください。(複数回答可)

	回答数(人)
行政機関の電子媒体(ホームページ・ソーシャルメディア等)	19
広報誌等(チラシ・パンフレット)	26
周りの人(家族や友人、知人等)に教えてもらった	3
その他	6

Q 8 県・市町では、犯罪被害者等を支援するため、経済的負担を軽減したり、精神的・身体的被害の防止やその回復を図ったり、二次被害の防止や犯罪被害者等を皆で支えていくという観点から、犯罪被害者等がおかれている状況について周知啓発活動に取り組んでいます。あなたは、これら県・市町の取組を知っていますか。

	回答数(人)	構成比(%)
知っていた	25	8.2%
取り組んでいるのを見たことがある	37	12.1%
知らなかった	243	79.7%
合計	305	100.0%

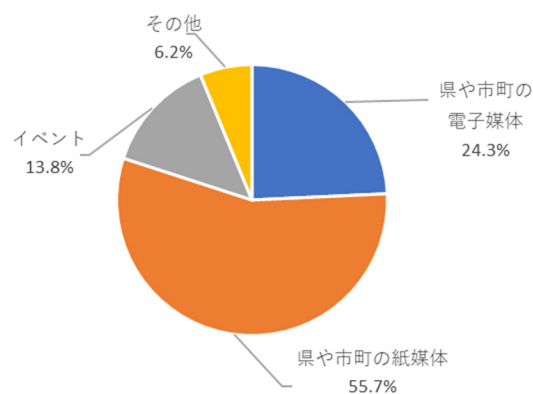


Q9 (Q8で「知っていた」と回答された方にお尋ねします)あなたが、県・市町の取組を知ったきっかけとしてあてはまるものを選んでください。(複数回答可)

	回答数(人)
県のホームページ	14
全世帯広報誌、新聞広報欄	13
NBCラジオ	1
県庁エントランス 十八銀行電子掲示板	2
県及び県警のイベント	7
長崎犯罪被害者支援センター のホームページ	4
市町の広報誌、ホームページ	10
市町の掲示板、配布物	0
バスの車内放送	1
その他	4

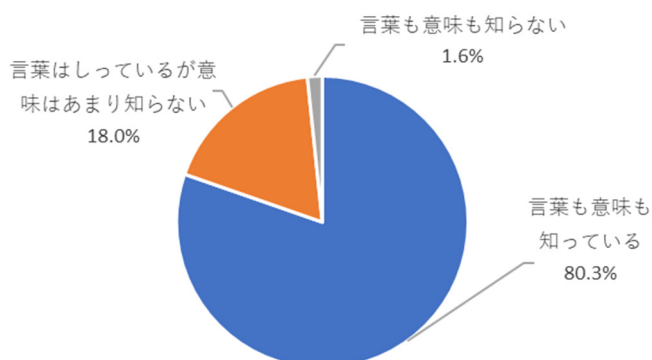
Q10 今後、県・市町の犯罪被害者等支援への取組を広く周知するためには、今後、何が必要と思いますか。あてはまるものを1つを選んでください。

	回答数(人)	構成比(%)
県や市町の電子媒体(ホームページ・ ソーシャルメディア)	74	24.3%
県や市町の紙媒体(広報誌・チラシ・ パンフレット等)	170	55.7%
イベント	42	13.8%
その他	19	6.2%
合計	305	100.0%



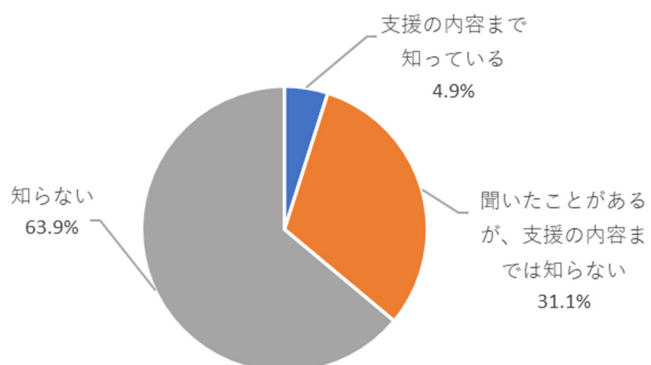
Q 1 1 性暴力被害についてお尋ねします。あなたは、その言葉や意味を知っていますか。

	回答数(人)	構成比(%)
言葉も意味も知っている	245	80.3%
言葉は知っているが意味はあまり知らない	55	18.0%
言葉も意味も知らない	5	1.6%
合計	305	100.0%



Q 1 2 あなたは「サポートながさき」の存在を知っていますか。

	回答数(人)	構成比(%)
支援の内容まで知っている	15	4.9%
聞いたことがあるが、支援の内容までは知らない	95	31.1%
知らない	195	63.9%
合計	305	100.0%



Q13 (Q12で「支援の内容まで知っている」又は「聞いたことがあるが、支援の内容までは知らない」と回答された方にお尋ねします)「サポートながさき」を知ったきっかけとしてあてはまるものを選んでください。(複数回答可)

	回答数(人)
県のホームページ	28
全世帯広報誌	53
NBCラジオ	9
エントランス、十八銀行電子掲示板	2
イベント	13
支援センターのホームページ	8
広報用カード	6
掲示物・配布物	20
バス車内放送・広報ステッカー	5
コンビニ・飲食店トイレ内のシール	5
CM	12
その他	2

Q14 「サポートながさき」への相談者の6割以上は、20代以下の若い世代の方が占めています。

今後、「サポートながさき」の活動を広く周知するために有効な手段は何だと思いますか。

	回答数(人)	構成比(%)
電子媒体	91	29.8%
紙媒体	41	13.4%
イベント	14	4.6%
新聞・テレビ・ラジオ等を活用した広報	62	20.3%
広告物(ポスター・ステッカー)	4	1.3%
動画コンテンツ配信	13	4.3%
学校、専門学校、大学などでの講座	76	24.9%
その他	4	1.3%
合計	305	100.0%

